

修了評価の方法

評価基準作成者：松村 康亘

評価方法及び合格基準	<p>1 出題範囲</p> <ul style="list-style-type: none">「(2) 介護における尊厳の保持・自立支援」から「(9) ころとからだのしくみと生活支援技術」までとする。テキスト1分冊から4分冊の間で出題する。 <p>2 出題形式</p> <p>四肢択一形式とする。</p> <p>3 出題数</p> <ul style="list-style-type: none">択一問題32問(配点100点) 全問正解：100点満点(2) 介護における尊厳の保持・自立支援 (A) 4問 (B) 3問(3) 介護の基本 (A) 1問 (B) 1問(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携 (A) 4問 (B) 3問(5) 介護におけるコミュニケーション技術 (A) 3問 (B) 2問(6) 老化の理解 (A) 2問 (B) 3問(7) 認知症の理解 (A) 3問 (B) 2問(8) 障がいの理解 (A) 2問 (B) 4問(9) ころとからだのしくみと生活支援技術 (A) 9問 (B) 10問事例問題 (A) 4問 (B) 4問 <p>4 合否判定基準</p> <p>60点以上</p> <p>5 不合格になったときの取扱い</p> <ul style="list-style-type: none">結果発表後、1時間の補習のうえ再評価を行う。 なお、再評価に係る合格基準は60点以上とする。再試験を最大3回まで実施する。 なお、再試験の結果、不合格であった者には、未修了扱いとする。
------------	---